

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)）

## 分担研究報告書

難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究

血管腫・血管奇形などの医療費および医療経済に関する研究

分担研究者 田倉智之 一般社団法人受療者医療保険学術連合会 理事

### 研究要旨

本研究は、血管腫・血管奇形およびその関連疾患を対象とし、現行の医療保険制度における医療費の実態を明らかにすることを目的とした。血管腫等を主病名に受診をした50件を対象に分析を行ったところ、平均請求額は1,845.9±3,558.4（点/月）となった。また、性別や年齢で統計学的に有意な差がみられた。得られた結果は、今後の医療経済学的な基礎資料になると期待され、制度を支える国民の共助・互助などを論じる支払意思（WTP）の検討にも資する。

### A．研究目的

一般に血管腫・血管奇形と呼ばれている疾患は、小児期に自然退縮するのが大きな特徴である。良性腫瘍以外は、脈管の発生異常により生じた血管奇形であり、自然退縮することなく成長に伴い増大し、疼痛や潰瘍、整容上など患者QOLに著しい影響を生育から長期間に及ぼす病態と言われている。

一方で、その病態特性などを背景に確立された分類法が臨床現場に普及していないため、多くの患者は診断の確定と適切な介入までに時間や受診を費やせざるを得ない状況にある。そのような中、侵襲度が比較的少なく、効果がより期待される治療法と考えられる「硬化療法・塞栓術」などは、保険適用外の現状にある。

今後は、血管腫・血管奇形などに対する治療によって得られる効果を社会経済的な観点から整理を進め、臨床のみならず社会的にも有意義な医療技術

については、医療保険制度などで積極的に評価を行うことが望まれる。

そのためにも、本邦における当該領域の医療経済的な実体を明らかにし、基礎的なデータの蓄積を行うことが不可欠である。以上から、本研究では、現行の医療保険制度における医療費の現状について整理を目的とする。

### B．研究方法

本研究は、平成26年度の自治体（保険者）を中心とした診療報酬データ約10万件（データベース）から、当該疾患に関連する請求病名のサンプルを抽出し、医療費の動向について解析を行った。

抽出の方法は、傷病名マスタから該当コードを選択し、関わるコード（第一記載）で請求されたサンプルを選択し、年齢、性、診療月、総医療費（医科の入院、外来、調剤）、請求内訳などを整理した。なお全身性のその他の傷病名（コード）などが併記されているものは除外した。

統計学的な処理は、有意水準を5%として、母平均の差の検定は、t検定を応用した。解析にあたり、市販ソフト（EXCEL統計、XLSTATなど）を利用した。なお医療費の単位は、請求点を用い、自己負担分を含む計算を行った。

さらに、医療費の議論に関係のある、国民の共助としての支払意思額（Willingness to Pay：WTP）の先行研究の実績を整理した。サーベイ方法は、PubMedおよび医中誌のデータベースを対象に、過去10か年にわたり検索を行った。

（倫理面への配慮）

本研究では登録されたデータを用いた。人権擁護については厚生労働省の「疫学研究における倫理指針」「臨床研究に関する倫理指針」に準拠しており、プライバシーの保護についても厳守した。

## C．研究結果

データベースから該当サンプルを抽出した結果、血管腫等を主病名に受診をした50件を分析の対象とした。男性比は34.0（%）であり、平均年齢は $41.3 \pm 27.8$ （歳）となった（表）。なお、小児群の平均年齢は、 $6.6 \pm 5.8$ （歳）であった。

医療費の解析を行った結果、平均 $1,845.9 \pm 3,558.4$ （点/月）となった。年齢帯で層別解析を試行したところ、若年・壮年帯（ $3,321.9 \pm 6,090.5$ ）は、小児（ $< 16$ 歳； $1,036.0 \pm 1,397.4$ ）および高齢（ $> 65$ 歳； $1,421.9 \pm 1,170.8$ ）よりも高い傾向にあった（ $p < 0.05$ ，図）。また、性別で層別解析を試行したところ、女性群（平均 $4,203.3$ ）は男性群（ $1,774.4$ ）よりも医療費が高い傾向にあった（ $p < 0.05$ ）。

なお、支払意思額に関する文献検索を行った結果、本検討に資する報告はなかった。

## D．考察

診療報酬請求のデータを利用した分析に

おいては、検査データなどとの連結ができないため、一般に、患者背景や疾病機序を考慮した検討が困難であると言われている。また、交絡や選択などのバイアスも除外できないうえ、施設特性や地域特性などの影響を受ける事も指摘されている。

以上から、本研究の結果は一定の制約条件のもとで、医療保険制度における血管腫・血管奇形などの医療費を試行的に整理したものであると理解される。一方で、当該領域における医療費の報告は僅かであり、本結果は、基礎的な資料に位置づけられる。

当該病態の特性を背景に、臨床現場における適正診断が十分でなく、また医療保険制度における請求も多様性があるという議論も散見されるため、本研究で抽出されたサンプル背景も幅があると推察される。そのため、総医療費の標準偏差が比較的大きい傾向にあったと考えられる。

年齢帯による層別解析では、若年・壮年帯の総医療費が高い傾向を示したが、この理由として病態機序などを背景に、医療資源の消費が伸長した可能性が考えられる。また、性別による層別解析で、女性群の総医療費が高い傾向にあったのは、整容上の観点による差異や母集団の年齢分布の影響が想像される。

今後は、臨床データなどと連結したより大きなサンプルサイズにおいて、疾病部位や罹患期間などを考慮した精緻な研究が望まれる。なお、当該領域の支払意思額の先行研究が少ないのは、近年、病態の分類法が変わる過渡期にある中、症状が多岐に渡り評価が難しい点、および医療費に関わる関心が過去において比較的高くなかった点などが理由として推察される。

## E．結論

血管腫・血管奇形などについて、現行の医療保険制度における医療費の実態を明らかにしたところ、性別や年齢で統計学的に有意な差がみられた。

## **F . 研究発表**

### **1 . 論文発表**

欧文

・ Yusuke Ono, Keigo Osuga, Tomoyuki Takura, Masahisa Nakamura, Kentaro Shibamoto, Akira Yamamoto, Hiroyasu Fujiwara, Hidefumi Mimura, Noriyuki Tomiyama. Cost-effectiveness analysis of percutaneous sclerotherapy for venous malformations. J Vasc Interv Radiol. Vol.27 No.6, pp.831-7. 2016

和文

なし

### **2 . 学会発表**

なし

## **G . 知的所有権の出願・登録状況**

**( 予定を含む )**

### **1 . 特許取得**

なし

### **2 . 実用新案登録**

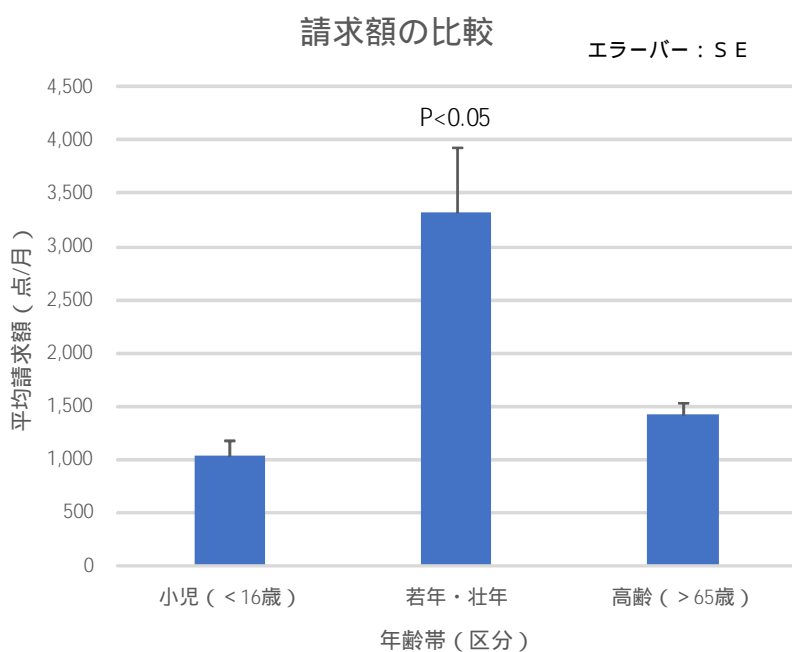
なし

### **3 . その他**

なし

表．対象の背景

項目	値 / 平均	標準偏差
件数 (件)	50	
男性比 (%)	34.0	
年齢 (歳)	全体 : 41.3 ± 27.8 小児 : 6.6 ± 5.8	
請求額 (点/月)	1,845.9 ± 3,558.4	



図．年齢帯別の総医療費